

第2学年〇組道徳科学習指導案

令和7年10月2日（木曜）第5時限
指導者

- 1 主題名 持続可能な社会の実現 内容項目〈C-（12）社会参画、公共の精神〉
- 2 教材名 まだ食べられるのに（とびだそう未来へ）
- 3 主題設定の理由

（1）ねらいとする価値について

日々の生活の中で、私たちは何気なく食品を捨ててしまうことがある。しかし、そのような行動が積み重なることで、膨大な食品ロスが生まれ、「持続可能な社会」の実現を妨げる要因となっていることに気づくのは容易ではない。また、「自分一人くらいなら」という意識がその問題を見えにくくしている側面もある。

一方で、社会では「米が足りない」「物価が上がっている」といった食料の不足や不安が広がっている。にもかかわらず、まだ食べられる食品が大量に捨てられているという現実、大きな矛盾をはらんでいる。この授業では、食品ロスを個人の問題ではなく社会全体の課題としてとらえ、持続可能な未来を考えるきっかけとしたい。

（2）生徒の実態について

給食はよく食べる生徒が多く、おかわりをする姿もよく見られる。また、「残さないようにしよう」という意識も一部にはあるが、好き嫌いによって残す生徒も多く、「食べる人が食べればよい」といった他人任せな雰囲気も見られる。社会のニュースにはあまり関心がなく、世界で食糧不足に苦しむ人々の存在は知っていても、自分ごととして捉え、行動に移す様子はほとんど見られない。この教材を通して、社会の一員としての自覚をもち、日々の行動に少しでも変化が生まれるきっかけになることを期待したい。

（3）教材について

本教材は、まだ食べられるにも関わらず、大量に廃棄されたパンの写真から始まる。そして食品ロスを見るのが嫌だと感じているごみ収集作業員の人たちの思いから、生徒の食品ロスに対する問題意識を高めさせるようにつくられている。さらに、日本の食品ロスの現状を具体的に感じることができるように、廃棄されている食品や給食における食べ残しなどについて、数値やグラフなどを提示している。以上のような食品ロスの現状を目の当たりにすることにより、自分の食生活に対する新たな気づきが生まれてくると感じている。

4 ねらい

- 「食品ロス」で捨てているものを多面的・多角的に考えることで、「食品ロス」がいかにもったいないことなのかを理解し、自分ができることを主体的に考えようとする。
- 「食品ロス」の問題を通じて、食べ物を大切にすることの意味を考え、感謝の心や責任ある行動について自覚を深める。

5 準備（教）写真（生）Chromebook

6 指導過程

時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
8	1 本時の教材の内容確認をする。 (1) 「食品ロス」の言葉の意味を知る。	○ 事前読みを行うことで、考える・議論する時間を確保する。 ○ 食品ロスとなったパンの写真を提示して、「もったいない」という感覚を視覚的にとらえさ	○ 「食品ロス」の意味を理解することができたか。（観察）

	<p>(2) SDGsを通して、現代社会が抱える課題について知る。 △SDGsとは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 17の目標からなる。 ・ 2030年が目標達成のタイムリミット。 ・ 各国の達成状況を知る。 <p>(3) 世界の飢餓について知る。</p>	<p>せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「食品ロス」という言葉をおさえる。 ○ 食料自給率にもふれて、日本が輸入に大きく頼っていることをおさえる。 ○ クラスのある日の給食の残りの写真を見せ、自分事としてとらえさせる。 ○ SDGsを通して、よりよい社会に向けて、一人ひとりが社会の一員である自覚をもてるようにする。 ○ ユニセフのポスターや写真を提示して、視覚的にとらえさせる。 ○ 世界では、食べるものがなくて苦しんでいる人がいて、命を落とす人もいることに目を向けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現代社会が抱えている課題を理解することができたか。 (観察)
<p>30 (38)</p>	<p>3 「食品ロス」について考える。</p> <p>(1) 「食品ロス」で失うものについて考える。</p> <p>▲ 「食品ロス」で捨てているものは何だろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食べ物 ・ 作ってくれた人の気持ち ・ 命 ・ 作る過程で使用したエネルギー ・ 運ぶのに使用した資源 ・ 運ぶのにかかった労力、時間 ・ 処理するのに使用する資源 <p>(2) 「食品ロス」について改めて考える。</p> <p>△ 「食品ロス」をゼロにすることはできるのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ひとりの意識でゼロにすることもできる。 ・ 完全にゼロにすることは不可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人で考える時間を十分に確保する。 ○ ファシリテーションの技術を活用して、班で話し合わせる。 ○ ファシリテーターは意見を引き出すことを徹底させる。 ○ 班で意見を引き出したら、全体で意見を共有する。 ○ 多面的・多角的に考えるために「食品ロス」で捨てているものは、食べ物だけではないことに気づかせたい。 ○ 生産者から消費者の手元に届くまでの流れを考えていくことで、生徒から意見を引き出す。 ○ 作り手の気持ちも考えることで他者理解を図る。 ○ ゼロにすることは難しい意見が多い場合には、「食品ロス」は仕方がないことなのか、どうしようもないことなのか、揺さぶりをかける。 ○ ゼロにできる意見が多い場合には、どのようにすればよいのか具体的に問う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを発表できたか。 (発表・観察) ○ 友達の意見に耳を傾けて考えを深めることができたか。 (発表・観察) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「食品ロス」で捨てているものを多面的・多角的に考えることで、「食品ロス」がいかにもったいないことなのかを理解し、自分ができることを主体的に考えようとしたか。(発表・観察)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを発表できたか。 (発表・観察) ○ 友達の意見に耳を傾けて考えを深めることができたか。 (発表・観察)

	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゼロにすることはできないかもしれないが、減らすことはできると思う。 ・ ゼロに近づけることが重要なことである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 補助発問を通して、意識や行動を具体的に掘り下げる。 ○ 社会の一員として、感謝の心や責任ある行動について自覚を深める。 ○ “食”が大切であり、食べることを楽しむことで、人生がより豊かになることもおさえる。 ○ 価値理解だけではなく、消費期限などやむを得ないこと場合もあることも大切にするように伝える。 	<p>「食品ロス」の問題を通じて、食べ物を大切にすることの意味を考え、感謝の心や責任ある行動について自覚を深めることができたか。(発表・観察)</p>
7 (45)	<p>4 授業を通して感じたことや思ったことをまとめ、振り返る。 △ 今日の授業で、考えたことや感じたことを振り返りシートに入力しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りシートに入力させる。 ○ 授業を振り返り、自分自身の生き方を見つめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習をふまえ、これからの行動について意見をまとめることができたか。(振り返りシート)

○ 板書計画

「まだ食べられるのに」
もったいない
「食品ロス」：まだ食べられるのに捨てられる食品
日本の食料自給率↓38% ※先進国最下位
輸入に大きく頼っている

- 「食品ロス」で捨てているものは何だろう。
- 食べ物
- ・ 作ってくれた人の気持ち
- ・ 命
- ・ 作る過程で使用したエネルギー
- ・ 運ぶのに使用した資源
- ・ 運ぶのにかかった労力、時間
- 「食品ロス」をゼロにすることはできるのだろうか。
- ・ ○ 一人ひとりの意識でゼロにすることもできる。
- ・ △ ゼロにすることはできないかもしれないが、
減らすことはできると思う。
- ・ × 完全にゼロにすることは不可能である。
- ・ ゼロに近づけることが重要なことである。

○ 座席表

教 卓

★				★		★	
				★			
★							
		★				★	
		★					

★ 積極的に表現活動ができる生徒